

ワードバスケット

Word Basket

プレイ人数：2～8人

対象年齢：10才以上（6才以上で遊べるルールもあります。）

所要時間：10分

カードを使ってしりとりをします。最初に手札を使い切ったプレイヤーの勝ちです。

W 用具

- ・文字カード：45枚
「あ」～「よ」各1枚、「わ」2枚
- ・ワイルドナンバーカード：6枚
「ワイルド5」2枚
「ワイルド6」2枚
「ワイルド7+」2枚
- ・ワイルドラインカード：9枚
「あ行」～「ら行」各1枚
- ・ルールブック 1

●文字カード



●ワイルド5・6・7+



●ワイルドラインカード



W 準備

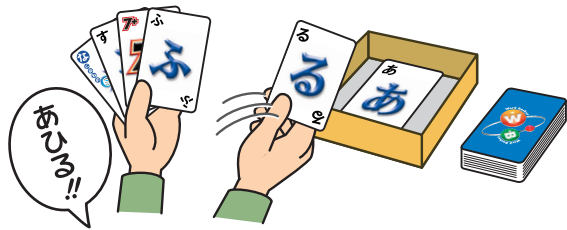
1. 中央にカードの入っていた箱を置きます。これがバスケットになります。あるいは台所にある丼を用意するのも良いでしょう。
2. 文字カードとワイルドカード、合計60枚をよく混ぜ、各プレイヤーに5枚ずつ配ります。これが最初の手札になります。
3. 残りのカードは大体2つにわけ、山札としてバスケットの両側に裏向きに置きます。

W 開始

適当なプレイヤーが、山札の一番上のカードを開いて表向きにバスケットの中に投げ入れたらゲーム開始です。このカードが最初の場のカードになります。

W プレイ

1. 各プレイヤーはそれぞれ、バスケットの中の「場のカードの文字」で始まり、自分の持っているカードの中にある「手札の文字」で終わる単語を考えます。
2. 単語を思いついたプレイヤーはその単語を声に出して言いながら手札をバスケットの中に投げ入れます。
【例】山札の一番上からバスケットの中に投げ込まれたカードは「あ」でした。自分の手札を見ると「か」「る」「さ」「け」「い」でした。このとき、「あひる」といながら「る」のカードをバスケットの中に入れることができます。あるいは「あしか」といって「か」のカードを出すこともできます。



3. 今度は投げ入れられたカードが「場のカード」になります。各プレイヤーは同じように「場のカードの文字」で始まり「手札の文字」で終わる単語を考えます。つまりしりとりですね（このゲームでのしりとのりのルールはあとで説明します）。

4. このゲームにはプレイヤーの順番というものはありません。単語を思いついたらすぐにプレイしていいのです。

W 「しりとり」のルール

1. 使える単語は「つくえ」や「コンピューター」などの普通名詞に限ります。ただし、よく知られたものならば人名地名など固有名詞もOKです。例えば「聖徳太子」や「アメリカ」などはOKでしょう。「よく知られている」かどうか判断のむずかしいものは、プレイヤー全員で話し合ってください。
2. 文字数は3文字以上とします。このとき、長音「ー（音引き）」促音「っ（小さい「つ」拗音「ゃ・ゅ・ょ（小さい「や」「ゆ」「よ）」はすべて一文字として数えます。以下の単語はすべて3文字です。
【例】「すきー」「らっこ」「しゅみ」
3. 最後の文字が長音の時は母音「あ」「い」「う」「え」「お」につながります。
【例】「ばたー」→「あずき」、「すきー」→「いんきょ」
4. 最後の文字が小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」のときは、それぞれ「や」「ゆ」「よ」につながります。
【例】「いんきょ」→「よーろっぱ」
5. 最後の文字が濁音「ん」または半濁音「っ」のときは濁音・半濁音の付かない文字につなげてかまいません。逆に濁音や半濁音の付かない文字に濁音・半濁音をつなげてかまいません。言い換えれば、このゲームでは濁音・半濁音を無視してかまわないということになります。
【例】「よーろっぱ」→「はっぱ」→「ばんど」→「とんぼ」
6. 「ん」で終わる言葉は使えません（しりとりですから）。使ったらペナルティになります。（【ペナルティ】の項目参照）
7. 前に出た単語を1ゲーム中何度使ってもかまいません。ただし、同じプレイヤーが同じ単語を連続して使ってはいけません。
8. 問題がありそうな単語は、プレイヤー全員で「常識的に」判断してください。

【リセット】

どうしても単語が思いつけないときなど、プレイヤーはいつでも「リセット」ができます。持っているすべての手札を一つにまとめ、「リセット〇枚」とカードの枚数を言いながら表向きにバスケットに投げ込みます。このとき、手札の中のどのカードを一番上にしてもかまいません（ただしワイルドナンバーカードだけは一番上にすることはできません）。その後すぐに山札から「捨てたカードの枚数+1枚」のカードを取り、新しい手札にします。こんどはそのとき一番上になっているカードが新たな「場のカードの文字」になります。

【ペナルティ】

しりとのりのルールに違反しているカードを間違っただけで、他のプレイヤーに指摘されたら、そのカードを手札に戻し、さらに山札からペナルティとして1枚を手札に加えます。指摘されないままに次のカードが投げ込まれたらペナルティにはならず、ゲームは続行です。さかのぼってペナルティを受けることはありません。